

210110八栗シオンキリスト教会礼拝宣教参考資料 ローマ8:31-39「引き離すことはできない」

31「神が私たちの味方であるなら、だれが私たちに敵対できるでしょう」

Psa. 118:6 主は私の味方。私は恐れない。

人は私に何ができよう。

Psa. 118:7 主は私の味方 私を助ける方。

私は 私を憎む者をもものとししない。

- 「神が味方なのだから、という一言で、一切の話はついてしまったのであります。この上何をいう必要があるのでしょうか。」
- しかし、人間は神がわれわれの味方になって下さったという事実には目をつぶって、自分が神の味方にならねばならないということにばかり、気が焦る。

32「すべてのもの」

- 神を気前の小さいお方として見てはならない。私たちの人間観や限られた人間理解に基づいて、神の恵みの大きさを矮小化してはならない。

33 だれが、神に選ばれた者たちを訴えるのですか。神が義と認めてくださるのです。

- 3つの反語による修辞疑問文が続く。
- 一つ目は、裁判のイメージ

34 だれが、私たちが罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです。

- 二つ目も裁判のイメージか。

「罪ありとするのですか」

- 「罪の宣告をする」という法廷用語。

「死んでくださった方、いや、よみがえられた方」

- 「死んでくださった方」とは私たちの罪の身代わりに死なれたキリスト
- しかし、死で終わったのではなく、よみがえられたお方なので、言葉を足している。

「とりなしていてくださる」

- 神が義と認めてくださるに続き、今度はキリストがとりなしてくださる。
- つまり、罪に定めてくる人々の攻撃に私たちが崩れてしまわないように、キリストがとりなして支えてくれる。27節では御霊のとりなしだった。

35 だれが、私たちがキリストの愛から引き離すのですか。苦難ですか、苦悩ですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。

「だれが、私たちがキリストの愛から引き離すのですか」

- 3つ目の反語。これまで二つは私達自身を責める攻撃。今度はキリストの愛を疑わせる攻撃。神との関係を引き裂こうとする攻撃。敵は内外から揺さぶりをかけてくる。

「苦難ですか、苦悩ですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか」

- 苦難や苦悩は様々な理由が考えられる。内発的なものもあるが、他は外から私たちに降りかかってくるもの。

- パウロ自身の経験とも重なる。パウロは他人事として言っていないのだろう。

2Cor. 11:24 ユダヤ人から四十に一つ足りないむちを受けたことが五度、

2Cor. 11:25 ローマ人にむちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度、一昼夜、海上を漂ったこともあります。

2Cor. 11:26 何度も旅をし、川の難、盗賊の難、同胞から受ける難、異邦人から受ける難、町での難、荒野での難、海上の難、偽兄弟による難にあい、

2Cor. 11:27 勞し苦しみ、たびたび眠らずに過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さの中に裸でいたこともありました。

- 剣以外はすべて言及されている。

- これらはパウロを死と直面させるもの。

- つまり、信仰者の置かれる状況が厳しい時に、私たちはキリストの愛を疑ってしまうということ。しかし、パウロはそれらはキリストの愛から引き離すことなどできないとこの後語っていく。

36 こう書かれています。

「あなたのために、私たちは休みなく殺され、
屠られる羊と見なされています。」

- 詩篇44:22からの引用

- 詩篇44篇は国家的な哀歌 (national lament)

- つまり個人の嘆きの歌ではないということ。イスラエル共同体の嘆きの歌。

- まず神の過去の救いのみわざを思い起こす (1-8節)。神はかつて異邦の民を追い払い、先祖たちをそこに住まわせた (2節)。それは神によるものだった。

- そして今の敵からの虐げを告白する (9-22節)。その最後の告白から引用されている。

- 最後に神の助けを叫び求める祈りで終わる (23-26節)

- パウロはイスラエルの民とキリスト者の民 (教会) を重ね合わせているのだろう。

- 教会も敵からの迫害にあい、苦しみにあう。「休みなく」の直訳は「一日中」だが、一日中、敵からの攻撃を意識し、緊張状態にあり、屠られる羊のような気の休まらない状態にある。

37 「私たちが愛してくださった方によって、私たちは圧倒的な勝利者」

- 神が私たちが愛することと、私たちが圧倒的な勝利者であることが結び合わされている。これは興味深い。

- 神の愛とは御子をなだめのささげものとして私たちの罪のために遣わされた (与えられたこと)。

1John 4:10 私たちが神を愛したのではなく、

神が私たちが愛し、

私たちの罪のために、

宥めのささげ物としての御子を遣わされました。

ここに愛があるのです。

Rom. 5:8 しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。